

○農地などからの面的な水質汚濁負荷量の把握と琵琶湖水質への影響把握

「面源負荷とその削減対策に関する政策課題研究」(2008年－2010年)

コーディネーター:大久保 卓也

面源(農地や市街地、森林、降雨等)から琵琶湖に流入する窒素、リンの負荷量を、これまでの調査結果および既往の文献データを整理・解析し、定量的把握が不十分な面源負荷(市街地、農地の降雨時負荷等)について現地調査を実施し、精度を高め、各種面源負荷量の算定結果に基づき、今後、琵琶湖の水質保全のため、どのような面源管理を実施すべきか(対策の重点をおくべき発生源の種類、時期、対象物質の検討等)を提案します。

研究の概要

琵琶湖は地形的に、水田などの農地や住宅地、森林に囲まれています。

このことから、琵琶湖の水質への面源負荷の影響は少なくないと考えられますが、定量的把握が十分されておらず、また琵琶湖の水質への影響も明らかになっていません。

また、面源負荷対策としてこれまで実施されてきた対策の効果についても十分な検証が必要です。

取り組む内容は次の3つです。

○これまでの調査研究データの整理・解析に加え、文献情報の収集・解析

○定量把握に必要なデータ収集

○流域内での節水、農業廃水の循環利用等水管理手法の工夫による面源負荷削減などの効果検証や水環境への影響を把握するための現地調査

